

2024年度

事業計画書

自 2024年4月 1日

至 2025年3月31日

2024年度 事業計画書

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症も昨年の春先から5類に移行しほぼ通常の生活に戻りました。国際状況は相変わらず不安定さが続き、円安や株高の傾向は依然として続伸しています。プラントメンテナンス業界では、今年度はメジャー定修年で、建設や修繕工事なども含め会員各社ともに業務量は豊富に抱えています。

ただ、いよいよ「働き方改革改善法案」に基づく時間外労働(残業)の上限規制が4月から導入されました。

就業環境の改善や人手不足の深刻化など様々な問題を抱える中、工業会としては、今後各委員会活動でアンケートなどを通じ各会員企業の取り組みを調査・広報していきたいと思えます。

人手不足を補いより安全な職場環境を整備するために、スマート保安に関する技術革新を研究・導入することが不可欠になります。そうした情報も会報やホームページで会員の皆さまへお知らせしますので、日頃の業務にお役立て下さい。

我が国の産業を支える生産設備に対し、日常メンテナンスや定期修理工事を安全・着実に完工させることが、我々の社会的責任を果たすものと考え取り組んでまいります。

プラントメンテナンス業界にとっては、このようにメンテナンスの社会的重要性は増大している中、各委員会活動では、昨今のテーマである人材の確保・働き方改革・スマート保安等の様々な課題・問題について関係官庁・諸団体とともに取り組み、さらにはフランチ締結技能講習制度についても、会員内外に発信していきます。

2. 本年度の主な施策取組み

プラントメンテナンス業を取り巻く以下の諸課題に積極的に取り組んでまいります。

- ① 業界全体としての人材確保、長時間労働、人材の育成等の情報を含め会員企業に有益な関連情報を収集、発信します。
- ② 他関連団体・教育機関と情報交流・提供を進めます。
- ③ プラントメンテナンス業および工業会の社会的な認知度アップに取り組みます。
- ④ 業界に関する法規上の問題抽出と会員企業への関連情報の提供に努めます。
- ⑤ プラントメンテナンス業に応用できる最新技術を調査、発掘し、会員企業への情報提供を目指します。
- ⑥ フランチ締結技能講習制度の認知度アップとさらなる充実

3. 事業内容

3-1. 総務委員会

理事会の諮問に応えながら工業会の方向付け等の具体的な仕組みづくりを行うと共に、理事会の付議事項の事前審議を行います。

3-2. 企画推進委員会

総務委員会及び各委員会と連携して工業会を取巻く問題点の抽出、活動内容の検討・調整を行います。2024年度は、以下に示す項目を推進します。

1. フランチ締結技能講習制度の維持管理とブラッシュアップ
2. 人材不足対策（西工大・新居浜高専・大分県立工科短大との連携と各種調査等）
3. 「スマート保安官民協議会」、経済産業省他関係省庁からの参画・検討依頼事項への対応による情報収集と会員会社への発信

3-3. 調査統計委員会

2024年度も基本的には従来の1年調査を実施して参りますが、アンケート内容を見直す事も委員会で検討します。

- ・各アンケート項目に於いて取組みに対する成果や効果等について新たに追加するようなアンケートにする。
- ・2024年問題も同様に調査して参ります。

3-4. 広報活動委員会

工業会活動PRのため、次の3点の基本活動を行います。

1. 会報内容の充実

- ・各委員会活動報告
- ・メンテナンスに関する技術や特集の掲載
- ・新たな特集記事の掲載

2. ホームページの充実

ホームページの全面リニューアルが完了したので更に内容の充実を図って行きます。

3. プラントメンテナンスショーに出展する会員企業の取材など。

2024年度プラントメンテナンスショーは、東京(7月)で開催。当会は、特別協賛として出展予定。(東京 ビッグサイト東展示棟)

また、日本能率協会との連携によるメンテショーに協力し展示会の充実を図ります。

3-5. 教育研修委員会

メンテナンスの高度化、高付加価値化を目指すための研修会などの企画、学生へのPR活動などは今後も継続して行っています。

1. 研修会の企画・運営

(1) 講演会 : 通常総会時実施

講師: 富士通シニアエバンジェリスト 武田 幸治氏(予定)

(2) 工場見学: 10~11月を予定(見学場所検討中)

2. 大学・高専講座に対する支援

- ・西日本工業大学の講座の進め方、講義担当各社への支援を行います。
- ・新居浜高等専門学校特別課程への工業会関与と講座担当各社への支援を行います。
- ・大分県立工科短期大学校との提携を継続します。

3-6. 法令・規格委員会

働き方改革に関連する内容を中心に、プラントメンテナンス業の課題に関連する動向調査等を継続して行います。

1. 各省庁の協議会・部会等の重要報告について継続調査します。
2. 長時間労働改善に繋がるICTツールに関するアンケートについて、その結果をまとめると共に工業会内の良好事例の共有、会報への掲載などを各委員会と連携し進めます。

長時間労働に関して経済産業省が行っている定期修理環境整備連絡会の動向を今後も継続して注視して行きます。

3-7. 評価提案委員会

委員会の基本活動として次の通り行います。

1. 「工業会表彰制度」の制度定着化

- ① 制度の問題点の把握と対応策の検討
- ② 応募企業の偏り改善(新カテゴリー・応募を促す広報活動の検討)

2. 「人材確保のためのPR方法」の検討

- ① 業界の実態調査見直し検討
- ② 業界の魅力・イメージアップ方法の調査・研究

3 - 8. 技術研究委員会

2024年度は下記のテーマを中心に委員会を進めます。

- ①7月に開催されるメンテナンスショーにおいて広報活動委員会とも連携し、日本能率協会との共同企画を進めます。SDGsについても若手を中心とした企画を立て、今までもよりも拡大した展示を実施します。
- ②ITやドローン・ロボットなどの要素技術は進歩しているものの、実際の現場での適用や実作業内容に関しては省力化されておられません。現場作業の省力化技術の調査・紹介を進めていきます。
- ③引き続き公官庁の会合にも積極的に参加し情報を取集していきます。
- ④工業会における技術研究委員会での位置づけを考え、今後の委員会のあるべき姿を検討していきます。

以上